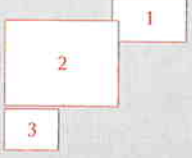




1:南アフリカで行われたヨガ大会で、講演をする「沖正弘」 2:南アフリカ・レント訪問時の一枚。後列中央が「沖正弘」、前列右端はB.K.S.アイアンガー氏、前列中央は球数泰夫先生 3:右が「沖正弘」、アシスタントとしてともに諸国を回る球数泰夫先生と。リラックスした表情が見れる



本当のことは
真理、つまり神のこと。
求道ヨガを通して
あらゆる探究を重ねれば
宇宙や自然の法則が
見えてくる。
真理を見極める力を得られる。



第一回国際総合ヨガ世界大会にて指導する「沖正弘」



「修行で得る真の能力は 本当のことを見極める力」

MASAHIRO OKI

日本人の手によって探究され、深く愛され続けるジャパニーズヨガ「沖ヨガ」。本来は「求道ヨガ」と呼ばれるこのヨガでは、禅や武道など、日本人が古来から追求してきた「道」を総合、そのエッセンスを再編して生活の中で実践するという、生き方そのものことだ。偉人「沖正弘」が作り上げたこのヨガは、自他ともに喜んで生きるという宇宙の真理・自然の法則を伝えてくれる極上のメソッド。この素晴らしい財産を残してくれた偉人の道の手を見てみよう。子供のころの「沖正弘」は、体が

る彼は、家計を助けるために若くして一家の大黒柱に。そして、父親の人脈から、諜報員として活動することとなる。諜報員とは、わかりやすく言えばスパイのこと。第二次世界大戦中、参謀本部の特別諜報員としてモンゴルや中国、インドなど世界各地を巡った。そしてその訓練として、さまざまな医療法や各宗教の修行法などの特別訓練を体験。さらに、赴く土地の先々で、その必要上からあらゆる修行をすることになる。たくさんの修行を重ねる中で出会ったメソッドの一つがヨガだったのだ。

弱く病気がちだった。心配した両親は、療養のために少年をあちこちに連れて行つたと言われている。さらに、隣家に医師が住んでいたこともあり、幼いころからの医学的な知識が得られる環境にあった。また、母親は熱心な浄土真宗信者で、素晴らしい法話があるとの情報があれば同行させ、一緒に耳を傾けたと言う。こうして「沖正弘」は子供の時から精神的に豊かな知恵に触れて育つた。大きな転機となるのは、父親の逝去。「沖正弘」が16歳の時に、警察官だった父が亡くなった。長男であ

赴任先で出会うイスラム教やラマ教などの高僧は、「すべての宗教的修行法はヨガから出ている」と話した。いろいろな宗教で修行を積むうち、「沖正弘」は、これが事実だと確信した。「沖正弘」は著書の中で、「ヨガのよさは、すべての教宗派の修養法と修行法の生みの親であると同時に、それにとらわれず、それがないさらに超えているものをもいつしよに持っていることです。すなわち永遠に生きている、新しい教えです」と書いています。釈尊やガンジーを悟りに導いた教えがヨガであるという